自分の知らなかった引き出し

自分のためのボランティア活動

立冬を迎えお日様の香りがする布団が恋しい季節になった。落ち葉の季節も訪れ、金色に輝く銀杏、朱色に染まる紅葉や楓、なかまど等が私たちの目を楽しませてくれる。娘さんがみの～れ住民劇団　演劇ファミリーMyuに入ったのがきっかけで、みの～れと関わるようになった堅倉地区にお住まいの廣木たみ子さんを取材する。

「知らない世界、 知らない方と多く出会えたことが自分にとってプラスになった」と語る廣木さん

演劇ファミリー Myu マザーズ隊長
みの～れ支援隊　公演スタッフ

廣木 たみ子さん

みの～れと共に生活するスタイル
Minole Life のすすめ
No.42

廣木さんは娘さんがMyuに入ったのをきっかけにみの～れと関わりを持つようになった。「初めはMyuのお母さん方と言う呼び名から、いつの間にかマザーズという呼び名になった。舞台のための美術や小道具、衣装等を作ったり、ビデオ撮影などの裏方をしています」と廣木さんは話す。「マザーズのお母さん方は、それぞれに特技を持っている。協力的で和気あいあいと活動している。」と話してくれた。Myuに関わる高校生以上の団員は公演スタッフに入り、ボランティアとしてお手伝いをするという。「この年になってみの～れで色々とさせてもらえる事が嬉しい。まさか、あんな大きな道具を作ったり、大きな絵を描かせてもらったり、中々経験できないことをさせてもらった。自分の知らなかった部分の引き出しを開けて、磨かせてくれたみの～れは素敵なところ。そして、知らなかった世界や友達が沢山出来た。みの～れに来る人はみんな暖かでいい人たちばかりなので自分にとってプラスになった」と廣木さんは話してくれた。現在、みの～れの「陽だまり横丁」でMyuマザーズの皆さんが製作した舞台美術が展示されている。粘土で作ったピザやデコレーションケーキ、さつまいもやジャガイモは細かいところにまで手が加えられており、本物そっくりで食べてしまいたいくらい素晴らしい仕上がりになっている。人形も衣装まで全て手作りで製作してあるので舞台ではなく間近で見ると一層感動すると思う。また、廣木さんは12月23日（木・祝）小川文化センター（アピオス）で行われる「おやこDEジャズ」の中で使われる絵本の挿絵にも挑戦した。温かな可愛らしい絵を描いている。誰もがこの絵本を見たらサンタクロースに逢いたくなってしまうと思う。「先日、マナー研修の先生がボランティアは自分のため、自分磨きと教えてくれたのは本当だなと思った。公演スタッフのように人前に立つことによって、いつも見られているという意識が老化防止になるかな？」と話す。最後に、「娘がMyuの公演が終わるごとに成長していく姿を見ることが出来た。送迎だけでなく、自分も物を作り上げていく達成感を味わう事が出来た」と笑顔で話してくれた。皆さんも是非、まだ開けたことのない素敵な才能の詰まった引き出しを開けにみの～れに遊びに来ませんか？

（藤田佐知子）